

公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第131号 2024年6月12日 発行



新年度所感

公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川 哲朗
(恵寿金沢病院)

元日の発災から4か月を経過した5月上旬に本原稿は記している。皆様の生活はどうだろうか。同じような言葉で始まる文章を何度か書いていると思いつつも、やはり、心配事は令和6年能登半島地震である。命を落とされた方々に衷心より哀悼の意を表すとともに、被災地の皆様、関係者の皆様に、あらためて心よりお見舞いを申し上げる。また、発災から今日まで種々の士会災害対策活動にご協力頂いている会員の皆様に厚くお礼申し上げるとともに、発災以来、励ましや応援を頂いている日本作業療法士協会様、他都道府県作業療法士会様に深く感謝申し上げます。

能登半島地震への対応は、多くの地域で復興リハそして地域リハへ移行させて行くステージに入ったかと思う。一方でまだまだ、日々の生活を考えねばならない避難されている方も存在している。作業療法士として何ができるかを問いかけながら、対応に努力していきたいと考えている。状況は変化し続けているため、情報をキャッチし、対応を検討し皆様に協力頂くことになろうかと思う。その際には、地域によらず全県的な協力・支援をお願いしたい。

一方、足元を見れば本年は6年に1度のタイミングで3制度(医療・介護・障害福祉)の報酬が改定される年にあたる。総会に合わせて研修会を開催させていただいたが皆様の準備はいかがであろうか。業務の中で疑問点などが生じた際にはお気軽に士会に問い合わせ頂きたい。

昨年5月に新型コロナウイルスへの対応が改められ、生活が元に戻りつつある事実感しつつも気持ちが萎縮した状態なのは変わらず、その様な生活スタイルが常態化しつつある方も多いのではないだろうか。そんな心配をしているが、種々の研修会や士会活動に積極的に参加頂き、人と交わり触れ合う醍醐味を味わい、思い出して頂きたい。士会活動にお

いては、活動時のユニフォームとなる士会ポロシャツを設けた。これを着用し一体感を持ちながら活動しつつ、作業療法をアピールしていければと考えている。

能登半島地震に対する復興リハ・地域リハへの対応はもちろん、社会の要請である(全県的な)地域包括ケアシステムへの対応、認知症対策、発達障害分野対策、臨床実習指導者の養成、移動を介した社会参加支援(自動車運転への取り組み)についても各特設委員会などで適切に対応していく。

今回の発災後の対応でも強く感じたが、「人」は力である。スーパーマン的な人材も欲するところであるが、各部各委員会活動に参加して頂ける人の育成に力を注ぎたい。その点では完成した士会独自のキャリアラダーは積極的に活用頂きたい。

本年は、能登半島地震対策と共に秋に開催される第23回東海北陸作業療法学会が当会の活動の大きな柱となる。学会は9月14日・15日に石川県文教会館と金沢商工会議所において開催される。学会のテーマを「作業の力を魅せつけろー出て来てください。語ってください。あなたの自慢の作業療法。」とした。作業療法の良いところ、成果・効果について自信を持った言葉で、アピールして頂きたいと思う。公開セミナーには作業療法の実践を経験された地元アナウンサーの塚田君様を講師にお迎えして作業療法についてお話頂くことにしている。学会の中でも災害をテーマとするセッションを追加で設けた。

災害支援(JRAT)活動を通じ、県民の皆様や他団体に作業療法、リハビリテーションという言葉が広まったとも感じている。作業療法士への期待に応じるべく、質の担保を図りながら県民の健康と福祉に貢献していきたいと考えている。

特集 | JRAT活動報告

令和6年能登半島地震 JRAT活動報告 ～現地活動を支えるロジスティクスを経験して～

災害対策委員会 担当理事 高多 真裕美
(金沢脳神経外科病院)

当会は令和6年能登半島地震において、石川JRATと石川県の協定に基づき、発災直後1月1日から4月30日まで災害支援活動を行った。避難所への現地派遣3,223名、石川JRAT対策本部(以下、石川本部)のロジスティクス(以下、ロジ)人員1,915名、JRAT中央対策本部のロジ人員850名の計5,988名で、ロジ人員は全体の46.2%であった。中央および全国の地域JRATの協力を得た上での活動であり、ロジの役割は非常に大きなものであった。石川本部は県リハビリテーションセンターに設置され、活動全体の統括指揮であるロジリーダーを中心に、活動の調整、記録の管理、福祉用具や備品の調達・管理、支援人員の管理・調整を行った。また県保健医療福祉調整本部(石川県庁)内に、石川JRAT調整本部(リエゾン)を設置し、常にロジ要員を配置して県庁本部情報収集や関係機関との連絡調整を行った(写真)。

今回のロジ活動で学んだことは、①災害医療の基本原則である「CSCATTT(表)」の中で、特にC(指揮統制)とC(情報伝達)が重要であること、②会議は短時間であっても事前準備、ゴールの明確化、司会進行により課題解決に繋がれること、③災害支援者のストレスにも配慮

し互いに支え合う必要があることなどであった。普段の業務や今後の活動に活かしていきたい。

※JRAT(日本災害リハビリテーション支援協会)



県保健医療福祉調整本部(石川県庁 11F) *1月頃の様子

CSCATTT:災害医療の基本原則

C	Command&Control	指揮、統制
S	Safety	安全
C	Communication	情報伝達
A	Assessment	評価
T	Triage	トリアージ
T	Treatment	治療
T	Transport	搬送

令和6年能登半島地震を職場で経験 ～震災時の状況報告～

恵寿総合病院 永井亜希子

令和6年1月1日16時、本館5階でリハビリを終えた時に揺れを感じ、テレビから「揺れに注意、津波に注意」と聞こえた。病室は被害なく、病室を出た途端、再び長い揺れが起きた。走り寄ってきた患者とともに床に座り込み、揺れが収まるのを待った。それでも落下物もなく、「大丈夫」と思い、地震時のOTマニュアルに沿い、現状をTeamsで報告し3階に戻った。その時に、本館と他病棟を繋ぐ上空通路の天井落下、道路ひび割れ、電信柱傾倒、液状化の状況を目の当たりにし、現状が理解できなかったが、地震の揺れの長さやテレビから聞こえた「津波に注意」を思い返し、大変なことになったことをそこで知った。と同時に当院本館の免震構造のすごさも知った。それか

ら徐々に地域住民の方が当院本館へ避難に来られた。別棟にあるリハ室に行くと、天井から水漏れ、運転シミュレータ機器が床に散乱、異臭と悲惨な状況であった。即、当院の震災対策本部が設置された。他病棟は「危険」と判断され、他病棟の患者を本館空き病床に階段を利用し、4人がかりで何往復も移送を行った。それと同時に入院患者への食事やケアを行った。少し落ち着いたのは日付が変わる頃だった。翌朝の段取りを確認後、暗闇の悪路をスマホの明かりを頼りに車まで歩いたことを覚えている。発災以降、当院は「医療を止めない」を掲げ、復旧・復興に向け、職員一同、力を合わせて頑張っている。私も微力ではあるが、復興に向け、尽力していく。

JRAT活動報告

支援者として、被災者として

市立輪島病院 坂尻 智紀

令和6年能登半島地震は私たちにとって未曾有の大きな地震だった。輪島市の被害状況が次第に明らかになるにつれて、私たちの心には大きな不安が募った。周囲の安否を気遣い、職場での復旧活動や徐々に医療従事者としての役割を考えなくてはならない状況に直面した。当院内では職員の人手不足もあり、夜間受付業務、処方箋受付業務、院内物資の運搬などを中心に、リハ業務に関わらず病院業務に従事してきた。私自身、住居を失ったため職場に宿泊しながら業務にあたってきた。約5か月が経過した今も病院で寝泊まりせざるを得ない。そんな中、輪島市でも1月25日からJRATの派遣チームの活動を支援が開始され、当院スタッフも支援活動に参加することになった。上下水道、ガスなどライフラインの復旧の目途

が立たない中で行わなければならない避難所支援では、何よりも避難されている方々の心情や不安を汲みとり、医療のみならず生活ニーズ、心理的サポートの支援を継続してきた。輪島市内の避難所支援は、JRATが3月26日までに延べ124チーム、468名が活動にあたり、その後は当院リハスタッフが中心となって支援活動を継続している。医療サービスの提供はある程度整ってきたが、居住環境、介護福祉系サービスの復興はまだまだ時間がかかる状況のため、作業療法後の退院支援、地域生活支援が課題となっている。また被災者の想いを理解し、適切なサポートを提供することで、より良い復興と支援が実現できることを願う。



珠洲市総合病院の発災からのあれこれ

珠洲市総合病院 新出 さやか

2024年元旦、大きな揺れと津波に襲われた珠洲市。今まで生活してきた地域が全く違う姿になった。道路は寸断され、スタッフの参集が困難な中、次々と運び込まれる被災者。停電・断水の中トリアージが始まった。私が登院出来たのは4日。リハビリ室にはJMAT本部が置かれ、見たことのない景色になっていた。患者様が安全に安心して生活ができるようにと院外搬送が始まり、入院患者様のリハビリ、新規の方のスクリーニングに加え、搬送補助を行った。利用者の現状確認も始めたが、なかなか連絡がつかない状態だった。中旬、整形外科医師より依

頼があり外来リハビリ開始。2月より外来診療・通所リハビリ開始。避難所からの通いにも関わらず、笑顔を見せてくれる利用者に私たちが元気をもらった。現在、仮設住宅の入居が決まり、断水が解消し、患者様の数は増加傾向にあるが、在宅生活を支援するサービスが足りず、苦渋するケースが多いのが現状。しかし、当院からの患者様の受け入れや、避難所での支援などに対する感謝を忘れず、ここで生活をしている方、ここに戻ってきたいと思っている方が少しでも望む生活が送られるように私たちはここで出来ることを模索していこうと思う。

R6.1.1能登半島地震(震度7)を経験して ～震災時の状況や対応～

町立富来病院 増田 司

当日、病院は休日で医師や看護師等、合計12名勤務しており、入院患者39名、介護医療院入所者33名の計72名在院。私自身外出しており町内におらず。地震直後の職員や患者の恐怖は計り知れない。各自自分の安全確保や町内住民の避難誘導などを終え、富来病院に参集した。スプリンクラーの誤作動により水が流出し、水のかきだし作業や患者の安全確保に追われた。県内外DMATと連携し入院入所全員の転院搬送を決定し、1月2日～4日で全員搬送完了した。搬送の際に県外救急隊を含め合計28台の救急車が富来病院前に並び、連携しながら搬送していく様子は圧巻であり今でも目に焼き付いている。

震度7による富来病院の損壊は酷くリハビリ業務はできる状態ではない。医療をなるべく止めずにいち早く普及できるよう、院内の清掃作業や入院患者受け入れ場所の設営など全職員が疲労困憊の中、一丸となり作業に取り組んだ。

リハビリ業務は使っていない診察室にて設営し外来・入院・通所・訪問リハビリ開始した。元々のリハビリ室は入院患者の病室(8床)となり、屋外にはプレハブ設置にて入院患者の病室8床創設し合計16床で救急患者受け入れを開始した。

院内も少し落ち着き、2月頃からリハスタッフもJRATとして避難所巡回等、地域活動を実施。3月中旬でJRAT活動は終了したが、継続支援という形で富来病院リハビリスタッフとして避難所での作業活動の提供や体操・運動指導、ケアマネージャーや保健師と連携して仮設住宅の環境評価や入居者の能力評価など地域病院の強みを生かした活動を継続していきたい。

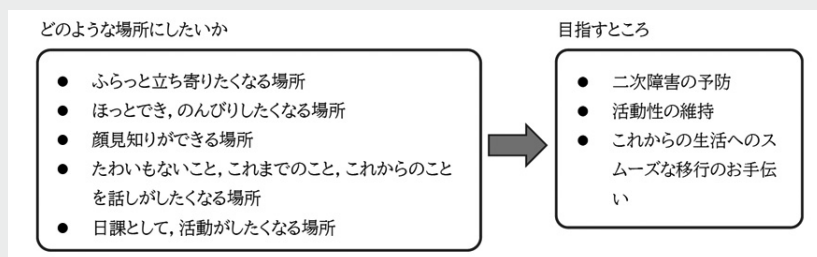


いしかわ総合スポーツセンター 1.5次避難所・ アクティビティセンターでの支援活動

金沢大学 菊池 ゆひ

アクティビティセンター(集い、運動、活動する場)は、1月22日、1.5次避難所内に開設された。滞在期間の長期化やテントでの閉じこもりが課題となっていた時期である。JRATは石川県リハビリテーションセンターと準備をすすめ、作業療法士は主に集い・活動する場の運営に携わった。

運営方針は、避難者の「やることがない」「何していいかわからん」「誰か知つとる人おらんか」という声から下記とした。



活動内容は材料の手配が容易、かつ担当者の誰もが対応できる内容に絞り、各種プリント、折り紙、将棋やおセロなどを準備した。

開設以後、センターは新しい出会いの場、日課としての活動場所、そして次の生活への情報、不安を共有する場と変化した。閉じこもりがちな避難者の行動は「あんた来とるかと思って」と立ち寄り、「洗濯、教えようか」と声をかけ、出かけるなど変化した。3月31日時点で、延べ参加者数は1700人を超えた。

冷静に振り返ると、センターは社会とつなぐ、活動と参加につなげる作業療法的手段と同じであり、作業療法士が被災者に対し、できる支援活動の1つだと改めて感じている。

石川県医療功労者知事表彰

受賞の御礼

野々市市健康福祉部介護長寿課 寺尾 朋美

このたびは、石川県医療功労者知事表彰をいただきましたこと、謹んで御礼申し上げますとともに、これまでご支援いただきました多くの方に深く感謝申し上げます。

また、令和6年能登半島地震において被害に遭われた皆さまには心からお見舞いを申し上げますとともに、いつもの生活に戻られますよう、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、私は行政の作業療法士として保健、福祉に関する業務の経験を基に、石川県作業療法士会の理事として10年、微力を尽くしてまいりました。

介護保険制度の導入、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の始まり、能登半島地震など様々な変化に対応しながらも、多くの方々と協力し市民、県民の皆さまの安心・安全な生活の実現に向けて支援しております。

これまでの経験と更なる自己研鑽に努めるとともに、更に一層のご指導ご編達をいただきながら、引き続き作業療法及び石川県作業療法士会の発展に尽力してきたいと思います。



優秀論文・コンテスト表彰者の喜びの言葉

優秀論文賞

論文名「アルツハイマー型認知症を呈した終末期の誤嚥性肺炎再燃患者・家族への Transdisciplinary approachによる食支援」

専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 坂下 宗祥

この度、優秀論文賞を頂き大変光栄です。我が子の摂食嚥下障害を経験し、摂食嚥下のリハビリテーション分野に関心をもち、この分野の臨床経験を重ねてきました。これまでご指導してくださった先生方、関わってくださった患者様とご家族様に変感謝しております。

今後も食支援に関してOTとして臨床実践の発信、研究分野にも挑戦し、地域に貢献できる人材になれるよう自己研鑽を続けていきたいと思っています。



奨励論文賞

論文名「慢性硬膜化血腫を呈した高齢女性の退院に向けた支援
～夫の院内一泊の介護体験を通し、夫と事例双方が合意した施設退院～」

芳珠記念病院 田家澤 茉実

この度は奨励論文賞をいただき、たいへん光栄に思います。指導してくださった先輩方、同僚のみなさんに深く感謝しております。初めての論文投稿で文章にまとめるということとはとても大変でしたが、自身の介入を振り返ることで新たな気づきや学びが得られたと思います。患者様から教えていただいたことを積み重ねていくことが大事なことだと実感しました。まだまだ未熟ですが、今回の受賞を励みに、日々の臨床業務や自己研鑽に取り組み、より良い作業療法を提供できるよう努力してきたいと思います。



生活行為工夫モデル事業福祉用具コンテスト

優秀賞

社会福祉法人金沢市社会福祉協議会 金沢福祉用具情報プラザ 城野 友哉

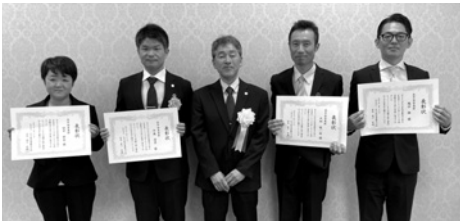
この度は優秀賞をいただきありがとうございます。相談者の訴えは「指に力が入らず、爪が切れない。軽い爪切りを探している」でした。従来の木製タイプでは「重い」と訴えがあり、軽量のアクリル板を使用しました。また、経年劣化による故障を考慮し、爪切りとアクリル板の固定にシリコンテープを採用しました。詳細は福祉用具相談支援システムのHP上でご覧ください。



永年会員表彰を受賞して

(医)長久会 介護老人保健施設加賀のぞみ園 在宅部・副部長 中森 清孝

この度、僣越ながら永年会員を代表して表彰を賜る機会を頂きました。20年を作業療法と共に成長してきたことに対する表彰は、大変光栄であったと共に様々な感謝が溢れる機会になりました。先ずはOTとして働く機会を頂いている職場に。何よりも日々関わる利用者様に。今回の機会を頂いた石川県OT会に。そして、今日まで支えてくれている家族に。感謝しかありません。



実習を振り返ると「お前には愛が足りない」と伝えられました。灰谷健次郎¹⁾は愛を「あなたの人生がかけがえのないように、あなたの知らない人生もまたかけがえのない。人を愛するということはあなたの知らない人生を知ることだ」と記しています。この言葉は当に作業療法そのものだと感じています。より一層OT愛が溢れる人になれるように日々精進を積み重ねていきます。

最後に、表彰に対する恩返しとして、今後活躍されるOTの成長にも携わるよう微力ながら貢献し続けていきたいです。

1)平井伸行：愛の言葉：いのちの言葉編集部，128-129，2011

永年会員表彰者の皆様

このたび二十年の永年会員表彰を受けた皆様をご紹介します。

大畑敬一郎	公立穴水総合病院	山本 幸栄	国家公務員共済組合連合会 北陸病院
茅崎 幸	佐原病院デイケア・ひだまりの樹	中之前幸代	ラフィーネうめばちすずみ
平島奈央子	石川県済生会金沢病院	島 佐智子	金沢子ども医療福祉センター
澤本 睦樹	金沢西病院	福井 清美	金沢医科大学病院
菅井 聖子	特別養護老人ホームボニジュール根上苑	田中 那奈	やわたメディカルセンター
小山 恵美	ときわ病院	新出さやか	珠洲市総合病院
中村 綾子	在宅介護デイサービス あつとほーむイースト	田畑 倫江	自宅(あんじん)
宮澤 裕美	佐原病院デイケア・ひだまりの樹	越田 雄	JCHO金沢病院
中森 清孝	加賀のぞみ園	百万真理子	内灘温泉保養館

新会員紹介

今年度39名の新会員が新たに加わった。

寺井病院	山崎 恵実	芳珠記念病院	武藤 里歩
国立病院機構 七尾病院	苦谷 勇太	芳珠記念病院	平井 花歩
訪問看護ステーションリハス金沢本部	中村絵里花	みずほ病院	池田舞雪花
金沢赤十字病院	梅田 一輝	金沢古府記念病院	水内 祐介
医王病院	小林 駿介	南ヶ丘病院	松田 珠実
森田病院	越後 凌大	公立つるぎ病院	竹田 彩花
石川県済生会金沢病院	平口山榛花	金沢西病院	灰野 倖世
石川県済生会金沢病院	小川明日奏	金沢赤十字病院	松井 悠人
岡部病院	野村 大翔	公立つるぎ病院	北口 郁夏
浅ノ川総合病院	中西 舞雪	珠洲市総合病院	源 優花
金沢脳神経外科病院	山本 和弥	加賀市医療センター	木ノ下心咲
恵寿総合病院	九田 小春	やわたメディカルセンター	枅野 屈紗
恵寿総合病院	坂本也哉子	城北病院	小林 寛大
恵寿総合病院	岡原くるみ	城北病院	長島 美琴
恵寿総合病院	青木佳那子	城北病院	中川 美穂
国立病院機構 石川病院	荒井なつみ	やわたメディカルセンター	辻 亜里紗
金沢脳神経外科病院	邑田 海樹	キッズルーム キャロット	奥野 智葵
金沢子ども医療福祉センター	土屋 沙世	キッズルーム パンプキン	角納 史剛
芳珠記念病院	鈴木 詩奈	小松市民病院	土肥菜奈花
金沢医療センター	木村 匠冴		

令和6年度 能登エリア応援企画 会員みんなで交流会(新会員交流・表彰祝賀会併催)を終えて

企画部担当理事 種本 美雪
(専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー)

今年は「能登エリア応援企画 能登も加賀も金沢も石川まるごと！会員みんなで交流会」と題して参集型で開催した。当日は新会員18名、表彰受賞者6名の総勢57名にて開催した。各所属先におかれては新会員が参加できるようご配慮頂き、また能登エリアの会員の方を含め多くの方に参加頂き感謝申し上げます。

当日は開催前から皆さんの笑顔がこぼれ、対面での交流会の良さを感じた。会では新会員の紹介やテーブル対抗のクイズでは一喜一憂するなど大きな盛り上がりを見せ

た。また東川会長のご挨拶の際、当会活動時に着用する新規ポロシャツのお披露目があった。県士会活動をされる際は是非着用頂き、作業療法の広報にご協力頂きたい。

発災以降、日頃会うことができない会員さんや能登エリアの方と会うことができ、皆さんの元気パワーと笑顔に触れることができた。今後も能登エリアでの活動と同時に人と人との繋がりを大切にし、作業療法士として会員や県民のみなさまにとって最適な支援の実現に繋がるよう活動していきたい。



未曾有の災害を経験して

社会福祉法人麗心会 デイサービスセンターアイリス あやめケアセンター 藤田 隆司

元日の夕刻、大変な揺れが私ども施設を襲った。入居者様と恒例の初詣に出かけ清々しい気持ちで新年を迎え落ち着いた矢先の出来事だった。関連施設に木造建築もあり入居者様が心配でそちらに走り、2回目に来た大きな地震に見舞われ、必死に揺れに耐え命を落としてしまうのでは、という不安と経験のない恐怖を感じた。幸い利用者、職員とも無事で不幸中の幸いだった。しかし建物の被害は甚大で、瓦屋根が落ち、天井からは配管折れによる水漏れ、建物内にひびや床の隆起、暖房が利かなくなった部署も出るなど、次から次と出てくる被害に途方に暮れた。間もなく、津波警報が発令され避難するか否かの判断を余儀なくされるが施設は高台にあり安全な場所に留まることとし、その高台にあるが故、地域の方が94名も避難しに来られ、この後の生活はどうなっていくのか不安がよぎった。一晩中、余震は続き、起きるたび机にもぐったり、頭を隠したりと繰り返し休む間もなく避難者と事務所で夜を明かした。

地域の方は明るくなってからお住まいに戻ったが、戻れなかった要支援者、その家族25名がとどまり入居者プラス福祉避難所も運営することとなった。断水もあり生活排水など不安だったが一晩夜を明かした地域の方のご厚意で、毎日、排水用にと2カ月半余水を運んでくれた。地域とのつながりのありがたさ、大切さを改めて感じた。次々と施設を心配してくれ、物資やお見舞いを持ってくださる支援者やご家族がかけつけ、物が不足してという心配は数日で解消した。この場をお借りして感謝申し上げます。

しかし、甚大な被害を受けた建物では今なお野戦病院の状態でお過ごしいただいている。その中でも特浴機械

にお湯の供給がままならず、県外から訪問入浴車の支援を頂いた。長期にわたる支援で、不活発でベッドでの臥床時間が増え、皮膚のトラブルも増えてきた矢先の支援で助かった。やはり不活発になることで体調を崩す入居者様も少なくなく、住み慣れた環境、活動の大切さを感じた。

現在、避難者は0となったが、当初は暖を取り、食事を提供するだけで精一杯で健康観察、活動云々とまで手が回らなかった。いろいろな情報が錯綜する中、しっかりと自治体に情報を伝え、しっかりと支援の要望をお伝えすることも大切だったと思う。どうにか自力でと頑張った挙句、職員への負担も大きくなっていったようだ。

今回、被災しににインフラ、電気、ガスなどはもちろんのこと水の大切さを思い知った。さらに高齢者、要支援者を支える職員、職員の環境までもが大切で、住まいをなくし職場を後にした職員が複数人となり、あとになってだが災害時に提供できる住環境も余裕があれば必要だったと痛感した。DPATなどの撤退も耳にするが職員の心にも手を差し伸べ、困ったときに困ったと声を上げられる環境を整えることの大切さも深く感じた。早く当たり前の日常を取り戻せるよう、道のりは長いですが復興を進めていきたい。



被災したデイルーム

第23回東海北陸作業療法学会 ～出て来てください。共に語りましょう！～

第23回東海北陸作業療法学会 実行委員長 堀江 翔

第23回東海北陸作業療法学会は9月14日(土)、15日(日)、石川県文教会館・金沢商工会議所にて開催する。先月演題募集が終了し、110題以上の登録をいただいた。震災の影響で困難な状況であった石川県からも多数の演題があり、会員の皆様には深く感謝申し上げる。開催まで4ヶ月を切り、実行委員一同スピードを上げて準備を進めている。内容として特別講演に加え協会会長講演や現役学生が参加するセッション、全国でご活躍の先生方による8つのセミナー、市民公開講座

など盛りだくさんな内容となっている。また震災関連のセッションやブースを設置し、現状やこれまで活動報告、実際に使用した用具などを紹介する機会を設けた。事前参加登録は6月下旬から開始する予定であり、充実した学会の開催に向けて鋭意努力していく所存である。会員の皆様には是非ご参加いただき学会をともに盛り上げていただきたいと思います。皆様の想いを、学会に来て、共に語りましょう！

作業の力を魅せつけろ

出て来てください。
語ってください。
あなたの自慢の作業療法。

2024
9/14 → 15
sat sun

**第23回
東海北陸
作業療法
学会**

第32回
石川県作業療法学会

— 学会情報をゲットするには —

Enjoy your SNS!

			
ホームページ	X(旧Twitter)	instagram	公式LINE
			
定期チェック！	フォロー&いいね！	フォロー&いいね！	友達追加！ 
学会に関する詳細 情報を把握できます	学会情報を他フォローと 気軽にシェアできます		定期的、自動的に 情報が届きます

能登支部

恵寿総合病院 小川 正人

先の「会員みんなで交流会」では奥能登地区の病院に入職された若者が能登の人々の力になるため、早く一人前のOTになりたいと熱意ある抱負を語ってくれた。

復興の最中にある我々にとって共に学び、語り合う機会が復興にむかう大きなエネルギーになると信じている。能登支部は事例検討会3回(6/14、10/11、2/8)、MTDLP検討会(11/29)、語らう会(12/13)、研修会(2/8)を予定。多くの皆様の参加をお待ちしている。

加賀支部

片山津温泉・丘の上病院 西村 幸盛

加賀支部ではこのニュースが手元に届く少し前に第1回事例検討会が開催され、活発な意見交換がなされたことと思われる。この次は8月7日(水)に第2回事例検討会を予定している。第23回東海北陸作業療法学会を9月14、15日に控え、およそ1か月前のタイミングでの開催となる。学会での発表を控えた会員におかれましてはこの第2回事例検討会での予演をブラッシュアップの機会としてぜひ活用していただけたらと思う。

金沢西支部

石川県リハビリテーションセンター 長原 美穂

今年度の金沢西支部の活動は、事例検討会は3回(6月12日、12月11日、3月5日)を予定しており、第1回および第2回は対面での開催を予定している。相談と交流の場であるミニ相談コーナーは、毎回テーマを決めて情報交換を行っており、好評を得ている。そして、MTDLP事例検討会は7月17日(Web開催)に開催する。身体障害分野と精神障害分野の2事例の報告を予定しているので、ぜひ参加いただければと思う。また、福祉のつどい金沢(10月6日)に参加し、作業療法の普及啓発を行う予定である。

金沢東支部

公立河北中央病院 市川 翔悟

今年度より年1回開催となったMTDLP事例検討会が5月22日に開催された。前回同様、新人用グループも作成し、事例検討会の進め方や解説を中心に行っている。次年度も開催を予定しているため、是非、新人の方には参加をしていただき、作業療法について考える機会を増やしていただきたい。また、年1回の開催となったため、他支部の事例検討会にも参加していただき、顔の見える関係を作っていきたい。

金沢東支部では情報交換や、支部内の連絡網としてLINEオープンチャットを使用している。まだ、利用していない会員の皆様には是非、利用をお願いしたい。



◆◆◆令和5年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第4回理事会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：令和6年3月5日(火) 19時～19時40分 西泉事務所 + オンライン
2. 出席理事：東川、麦井、桂、合歓垣、堀江、菊池(以上6名会場出席)米田、東、種本、中森、永井、酒野、村井、越田、坂下、加藤、高多、(以上11名Zoom)
出席支部長：市川、西村、小川(以上3名Zoom出席)
出席監事：後出雅敏、進藤浩美(以上2名Zoom出席)
欠席理事：鈴木
欠席支部長：長原
3. 議事：第1・2号議案 令和6年度事業計画と予算について会長と米田副会長兼財務理事より説明。 承認
第3号議案 麦井事務局長から休会申請者2名、永年会員申請者なしであると報告があった。 承認
修正動議1 令和6年能登半島地震の被災会員における会費免除について米田副会長兼財務理事より説明。 承認
修正動議2 令和6年能登半島地震支援活動の特別会計について米田副会長兼財務理事より説明。 承認

◆◆◆令和5年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第6回理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：令和6年 3月5日(火) 19時40分～21時 西泉事務所 + オンライン
2. 出席：同上理事、同上支部長
書記：山本(Zoom)、濱岸(会場)
3. 議事【審議事項】：
《福祉機器部》①生活行為工夫事業について：中部ブロックで合同研修会の開催案がある。講師謝金を折半してよろしいか 継続審議
②第3回生活行為工夫情報コンテスト：投稿事例が1事例でコンテストとして不成立。来年の2月末まで開催期間を延長しても良いか。1事例でも表彰に該当する内容であれば、期間延長せずに表彰する。 承認
《災害対策委員会》①県士会活動の継続に必要な支援について：各部で事業の運営可能かどうか確認し、県士会レベルで困難な場合は協会に人的支援を依頼する。 承認
②協会からの企画案1～6について：協会からの提案で実務は協会担当者が進める。企画案1には関わるが、他の部分は協会が担当。当日の運営、会員への呼びかけ等、補助的活動に理事が協力してほしい。 承認
③JRATからの支給対象外となる業務の日当費、会議費支給について：現地活動のみではなく、自宅業務者もいる。財源としては特別会計からの支出となり、活動に関わった会員には少しでも県士会から支援する意向であり、提案通り支給する。地域リハに移行後の活動に保険が有効な状態にしておく。 承認
【報告議案】各部より報告があった。

◆◆◆令和6年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第1回理事会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：令和6年4月11日(木) 19時～20時 西泉事務所 + オンライン
2. 出席理事：東川、米田、麦井、桂、堀江、菊池(以上6名会場出席)種本、永井、中森、越田、酒野、坂下、高多、鈴木、東、村井、加藤(以上11名Zoom出席)
出席支部長：市川、小川、長原、西村(以上4名Zoom出席)
出席監事：後出雅敏、進藤浩美(以上2名Zoom出席)
欠席理事：合歓垣
3. 議事：正会員数：836名(令和6年3月31日現在)賛助会員数：48施設・企業 会員資格喪失：2名
令和6年4月1日付 承認
第1・2号議案 令和5年度事業報告と決算について東川会長と米田副会長兼財務理事より報告。 承認
令和5年度監査報告について後出監事・進藤監事より報告。

◆◆◆令和6年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第1回理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：令和6年4月11日(木) 20時～21時 西泉事務所 + オンライン
2. 出席：同上理事、支部長、
書記：山本(Zoom)、濱岸(会場)
3. 議事【審議事項】：
《教育部》令和5年度県士会自由裁量ポイント付与対象者について：これまで通りの県士会活動への協力者に加えJRAT活動協力会員にもポイントを付与してもよいか 承認
《企画部》会員交流会の会費・タイムスケジュールについて：新会員、表彰者無料に加え、発災時以降七尾市以北の居住、職場がある会員は無料とする。タイムスケジュールは昨年より遅くなるが、ホテル側と調整する。 承認
《広報部》県士会ニュース127号について原稿メ切：5/22(水)、発行：6/12(水)としたい。 承認
《災害対策委員会》東海北陸学会での災害支援ブースについて：災害支援活動について伝える企画、避難所生活や支援について伝える企画を検討している。 承認
【報告議案】各部より報告があった。

インフォメーション 研修会案内・県士会活動

6月14日 能登支部
第1回事例検討会

8月23日 精神医療部
オンラインカフェ

6月21日 金沢東支部
第1回事例検討会

8月 MTDLP推進委員会
北陸三県MTDLP事例検討会

6月21日 発達障害支援部
いっしょに小児発達しよう会①

9月8日 教育部
現職者共通研修

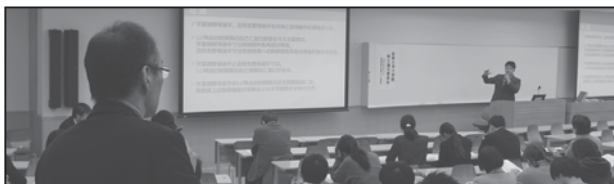
7月17日 金沢西支部
MTDLP事例検討会

9月14日15日 第23回東海北陸作業療法学会
石川県文教会館・金沢商工会議所

7月 執行部
2024マネージメント研修会

9月29日 加賀支部
能美市民フェスティバル

8月7日 加賀支部
第2回事例検討会



「超高齢社会」における
現場での悩みを解決したい方や、
学びの追及をしたい方へ。

金城大学 大学院で学んでみませんか？

- ・総合リハビリテーション学研究科
- ・総合リハビリテーション学専攻（修士課程）

遠隔オンライン
学習対応

安心設定の
学納金

就業しながら学べる
昼夜開講制



2023 年度
「作業療法士」
 国家試験合格率 **96.4%** (2023 年度卒業生実績)
 (全国平均 84.4%)



金城大学

詳しくは、
ホームページを
ご覧ください。



全国に広がる有料老人ホーム

パーキンソン病専門 PDハウス



施設 ビジョン

「我がままに生きる」

「病気だからできない」ではなく「病気ででもできることはある」という視点から、利用者様が様々なものに挑戦できる環境を目指しています。また、現場で働くセラピストの想いや技術が活きる、未来ある場所になるよう日々試行錯誤しています。

働き方改革

2023年に向けた **目標**

公休数
120日

残業
0時間

有給取得
100%

PDハウス野芥 笠松 朋枝

PDハウスには、元気で優しく知識が豊富で、尊敬できるスタッフさんがとても多いです。私もまだまだ周りの皆さんに助けをもらうことが多いのですが、これからは私自身が成長し、頼ってもらえるような存在になることが目標です。

出店計画

■ 北海道エリア PDハウス西野 2020.11 札幌2号店 2021.春	■ 関東エリア PDハウス相模大野 2021.01 東京1号店 2021.夏 神奈川2号店 2021.秋
■ 福岡エリア PDハウス有田 2020.06 PDハウス今宿 2021.05	■ 関西エリア PDハウス岸部 2021.06 大阪2号店 2021.秋



働き方
公開中!



介護サービス
サンウェルズ

| 0120-905-166



賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人財団董仙会
学校法人 金城学園

B会員

学校法人 センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会 青山彩光苑
特定医療法人社団勝木会
医療法人社団和宏会

C会員

粟津神経サナトリウム
石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈豊会
医療法人社団丹生会
医療法人社団生会えんやま健康クリニック
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団千木福久会
社会福祉法人寿福祉会
医療法人積仁会

金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
社団法人石川勤労者医療協会城北クリニック
城北病院
珠洲市総合病院
芳珠記念病院
医療法人社団 竜山会 金沢古府記念病院
医療法人社団持木会 柳田温泉病院
医療法人社団 光仁会
医療法人社団橘会整形外科米澤病院
宇野酸素株式会社
金沢義肢製作所
株式会社トータルシステム
株式会社トミキライフケア
エア・ウォーター・リンク株式会社 北陸支店
セントラルメディカル株式会社
株式会社 メディベック
株式会社 サンウェルズ

D会員

医療法人社団 あいずみクリニック
有限会社 さわやか金沢
東洋羽毛北信越販売株式会社北陸営業所

Web会員手続きQRコード



QRコードの説明

Web会員手続きがお済みでない会員は、QRコードからWeb会員

登録フォームにアクセスして登録してください。登録いただいた

メールアドレスに研修会案内や県士会からの連絡などをML配信します。

県士会Web QRコード▶



会員数

会員数 831名(令和6年5月18日現在) 新入会員数 39名 認定作業療法士数 41名

編集後記

「雲外蒼天」～どんな試練でも、努力して乗り越えれば快い青空が望める。現状、この言葉がぴったりで、青空が来ることを信じてどうにかこの試練を乗り越えていこうとこの5カ月余りを過ごしてきた。皆さんお一人お一人、いろいろな試練があったかと思う。数年先、この大きな災害を思い返したとき、しっかりと後世に伝えることも大切です、自分のことを褒められるようにできうることを見つめ一歩ずつ進めていかなければと日々思うところである。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当：酒野直樹、永井亜希子、川口朋子、藤田隆司、寺井利夫、萬貴裕、太田哲生、岩田望、網谷郁美、北野早紀、竹中朋也、仲佐東、上野玲子、川上直子、宮田真由美、竹村健太郎、増田司、南澁太

発行所：公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁目28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人：東川哲朗 印刷：ヨシダ印刷株式会社